

## 『ラテンアメリカ・カリブ研究所レポート』

### 「2017年12月チリの大統領決選投票の行方を占う：新興左派票の流れが鍵」

桑山幹夫<sup>1</sup>

- I. はじめに
- II. 新しい選挙制度
- III. 総選挙結果について
  - A. 大統領選挙
  - B. 上下両院議員選挙
- IV. 保守派とリベラル派の勢力関係の推移
- V. バチェレ政権下で進められた政治経済改革との関係
- VI. 今後の見通し

#### I. はじめに<sup>2</sup>

南米チリの中道左派ミシェル・バチェレ大統領(66)の任期満了に伴う大統領選が11月19日に投開票された<sup>3</sup>。選挙管理当局(SERVEL)によると、開票率99.94%時点で中道右派の野党連合(チレ・バモス:Chile Vamos)候補、セバスティアン・ピニェラ前大統領(67)が36.64%を得票、首位に立った。ただ、過半数には届かないため、決選投票(12月17日)が22.70%で2位につけた新しい与党連合の「多数派勢力」(フェルサ・デ・ラ・マヨリア)候補であるアレハンドロ・ギジェル上院議員(64)との間で争われることになった(政党・連合リストについては、図表1を参照)。今回の総選挙では、バチェレ大統領の後任だけでなく、上院議席の約半数(今回の選挙では奇数番号州の上院議員が対象)と下院の総議席が全15州で選出された。重大な事件が起きることもなく無事終わった。南部で有権者を投票場に輸送するバスが燃えた事件を除いて若者の抗議デモは1回しか報告されていない。

---

<sup>1</sup> \*ラテンアメリカ協会常務理事。ラテンアメリカ・カリブ研究所上級アナリスト。神戸大学経済経営研究所フェロー。本稿で示された見解は著者個人のものであり、必ずしもラテンアメリカ協会の見解を反映するものではない。

<sup>2</sup> 本レポートで使用される政党や連合の日本語訳は、筆者によるものであり、日本外務省の公式の訳名とは必ずしも合致しない。

<sup>3</sup> チリでは大統領の連続再選は認められていない。

チリで選挙管理当局の監督の下で公式の大統領予備選挙が行われたのは、コンサルタン  
 オン連合(Concertación de Partidos por la Democracia)が 1999 年に全国で公開方式によ  
 る予備選挙を実施して以来、今回が 2 度目だ。2017 年 7 月 2 日に開催された大統領予備選  
 挙では、「独立民主連合」(UDI)、「国民革新党」(RN)、政治進化党(Evópoli)、独立地域党(PRI)  
 によって構成される「チレ・バモス」連合の候補、及び「民主革命党」(RD)、「クリーン環  
 境党」(EV)、「市民権能党」(Poder Ciudadano)、「平等党」(Igualdad)で構成される「拡  
 大戦線」(フレンテ・アンプリオ)連合の 2 連立の大統領候補が選出された。海外在住の有権  
 者が公開投票に参加できたのは、この予備選挙が初めてだ。

図表 1 : チリ 2017 年総選挙 政党・連合ブロックリスト

| LISTAS(政党・連合リスト)                                | PARTIDOS INTEGRANTES(参加・構成政党)   |
|---|---|
| POR TODO CHILE(チリのための政党)                        | PROGRESISTA(急進党)<br>PAIS(バイス:国民党)   |
| PARTIDO DE TRABAJADORES REVOLUCIONARIOS(革新労働者党) | Partido de Trabajadores Revolucionarios (PTR:革新労働者党)  |
| FRENTE AMPLIO(FA:フレンテ・アンプリオ:拡大戦線連合)             | Revolución Democrática(RD:民主革命党)<br>Poder Ciudadano(市民権能党)<br>Ecologista Verde(EV:クリーン環境党)<br>Igualdad (PI:平等党)<br>Humanista (人権党)<br>Liberal de Chile(チリ自由党) |
| SUMEMOS(スモス:集結党)                                | Amlitud (拡大勢力)<br>Todos (みんなの党)<br>Ciudadanos (市民党)   |
| COALICION REGIONALISTA VERDE (クリーン地域連合)         | Democracia Regional Patagonia (DRP:パタゴニア地域民主党)<br>Federación Regionalista Verde Social (FRVS:クリーン地域社会連合)  |
| UNION PATRIOTICA(愛国者連合)                         | UNION PATRIOTICA(PA:愛国者連合)  |
| LA FUERZA DE LA MAYORIA(多数派勢力連合)                | Radical Social Demócrata (RSD: 急進社会民主党)<br>Comunista de Chile (PC:チリ共産党)<br>Socialista de Chile (PS:チリ社会党)<br>Por la Democracia (PPD: 民主主義のための政党)             |
| CONVERGENCIA DEMOCRATICA (民主派収束連合)              | Demócrata Cristiano (DC:キリスト教民主党)<br>Izquierda Ciudadana de Chile(ICC:チリ市民左派)<br>Más Región (MAS: 拡大社会運動)   |
| CHILE VAMOS(チレ・バモス連合)                           | Renovación Nacional:RN (国民革新党)<br>Union Demócrata Independiente:UDI (独立民主連合)<br>Regionalista Independiente (RI:独立地域党)<br>Evolución Política (Evópoli:政治進化党)   |

注：党・連合の日本語名は、筆者の訳で、日本政府による公式名とは必ずしも合致しない。

出所：筆者が選挙管理当局 (SERVEL) のデータから作成。

「チレ・バモス」の予備選には、ピネラ前大統領(RN)、極右派のホセ・アントニオ・カスト氏(Evópoli)、マヌエル・ホセ・オサンドン上院議員(UDI)の 3 名が立候補したが、ピネラ氏が 58%の得票率で勝利した。2 位につけたカスト氏は、最終的に 11 月の大統領選に出馬した。オサンドン上院議員は予備選の結果を受けて、出馬を断念した。与党連合の「新多数派」連合は、2017 年 4 月までに大統領予備選挙を行う予定だったが、連合に属

する政党の間で調整がつかず、予備選は実現しなかった<sup>4</sup>。連立政権の候補者、ギジェルとカロリナ・ゴイック「キリスト教民主党」(DC)両上院議員が11月19日の大統領選(第1次選)に立候補した。「拡大戦線」連合からは、ビアトリス・サンチェス(Batríz Sánchez)とアルベルト・モヨル(平等党)が予備選に立候補したが、サンチェスが68%の票を獲得、大統領選に出馬することになった。

今回の総選挙では、「キリスト教民主党」(DC)が28年間続いた与党連合「コンセルタシオン」から実質的に離脱、「チリ市民左翼党」(Izquierda Ciudadana de Chile:ICC)、「拡大社会運動」(Mas Región)と組んで、新しい中道連合「民主派収束連合」(Convergencia Democrática:CD)を立ち上げて、ゴイックDC党首を大統領候補に立てた。ピノチェト政権以後、民主政治を担った「コンセルタシオン」を引き継ぐ「新多数派」連合が2つに割れただけでなく、13政党・運動が新興左派の「拡大戦線」連合として結集したことで、チリのリベラリズムに大きな亀裂ができた。一方で、右翼でも「政治進化党」(Evápoli)が誕生、大統領選で独自の候補を立てて、保守票をピニェラ前大統領と争った(図表1を参照)。これまで保守・リベラルに2極化されてきた政界が一層複雑化したのである。今回の総選挙が、この新しい政治環境で戦われたことは注目に値する。

大統領の予備選挙で候補者を1人に絞ることができた野党連合(チレ・バモス)とは対照的に、与党の中道左派連合は候補者を一本化できず、与野党合わせて8人の候補が乱立した。経済界出身のピニェラ前大統領は2010～14年にわたり、ピノチェト軍政(1973～90年)後の民政移管以降初めて右派政権を率いた人物である。今回の選挙戦では、大統領在任中に堅調な経済成長を果たした実績を強調、市場重視の経済政策や無駄な歳出の削減などを公約して、低迷する経済回復をスローガンとして選挙戦を戦った。一方で、ジャーナリスト出身でテレビのニュースキャスターを務めた経験のあるギジェル候補は、社会福祉や労働者の権利擁護、地方分権の推進、大統領権限の縮小に力を入れると選挙戦で公約した。資源価格の低迷で経済が落ち込み、大統領の息子夫婦が絡んだ巨額の土地転売汚職など一連の疑惑が2015年に発覚したこともあってバチエレ政権の支持率が低迷する中、与党連合の苦戦が予測されていた。

得票数でトップに立ったピニェラ前大統領は、12月17日の決選投票においても優勢となるかもしれない。しかし、当初得票率が44%に達するだろうと予想されていたため、第1ラウンドの結果(36.7%)は、彼にとって「敗北」との見方が一般的だ(BBC Mundo 2017)。ピニェラ候補は開票当日夜、選挙結果を「素晴らしい結果」と評価したうえで、彼が全州で最多票を獲得した事実を強調した(Sanders and Quiroga 2017)。だが、彼の得票数は、バ

---

<sup>4</sup> 2017年4月9日、社会党(PS)中央委員会の投票により、次期大統領選挙に向けてPSとしてラゴス元大統領ではなくギジェル上院議員を支持することが決定した。ラゴス元大統領の立候補辞退を受けて、新多数派の大統領候補は、ギジェル上院議員およびキリスト教民主党(DC)党首であるゴイック上院議員の2名に絞られたが、ゴイック上院議員は以前から「新多数派」の予備選挙に参加せずに11月の大統領選挙に立候補する姿勢をみせていたことから「新多数派」の予備選挙の実施が不可能となった。ギジェル上院議員の支持層は、大統領選挙で中道左派の支持票が割れることを避けると共に、「チレ・バモス」の最有力候補であるピニェラ前大統領に対抗するためには「新多数派」内で予備選挙を実施し、統一候補を選出することが望ましいと考えられたが、最終的には統一候補を立てることができなかった。

チェレ政権に不満を抱く有権者の多くを引き付けることができなかったことを反映している点は否めない。ピニェラ票が伸びなかったことを受けて、株式市場は 5.86%下落した。1日でこれほど株価が暴落したのは 2011 年 8 月 8 日から 6 年ぶりのことだ。投票翌日の取引では、特に、建設・不動産部門(7.98%)、コモディティ関連(6.85%)、銀行(6.15%)が大きく落ち込んだ。一部のアナリストは、IPSA 指数が選挙前に過去最高を記録していたことで、投資家が利益確定売りしたことも株暴落に繋がったと分析する(La Tercera 2017c)。

選挙当日の大きなサプライズは、「拡大戦線：フレンテ・アンプリオ」連合候補、ビアトリス・サンチェスの健闘だった。彼女の得票率は 3 位で、20.27%だった。次期大統領を決定するのは、若年層が多い彼女の支持者であることを国民に印象づけた。サンチェス候補は、2017 年 1 月に学生指導者の支援を得て立ち上げた新興左派連合の代表で、2 大政党による政治の 2 極化の革新を図る意味合いがある(BBC Mundo 2017)。今回の選挙は、チリの政治が過渡期にあることを示したと言える。多くの有権者が「拡大戦線」を、「新大多数派」と右派とは異なる新勢力と位置づけ、これまで 2 大連合に 2 分されてきたチリの政界に新風を吹き込んで、異なった視点から民主的な政策提案ができる新勢力と評価したと言える。

当初から予想されていたように、11 月 19 日の投票率は 46%に終わり、自主投票制度<sup>5</sup>が始まった 2014 年の 49%をさらに下回る低率となった。この投票日に、14,308,151 人の有権者と海外在住の 39,137 人の登録有権者のうち、実際に票と投じたのは、国内で 6,686,000 人、海外で 22,990 人だった。チリで初めて自主選挙が行われた 2013 年選挙では、投票率が第 1 ラウンドで 49%、決選投票で 58%であった。2013 年の投票傾向が繰り返されれば、12 月 17 日の決選投票の投票率が上昇する可能性がある。バチェレ大統領は投票結果について、国家の社会的統合に向けて国民が団結し、進歩主義(progresismo)を引き続き強化するよう呼びかけた。また、彼女は投票率が低かったことを非難したうえで、12 月に投票所に足を運ぶよう市民に促した(BBC Mundo 2017)。

今回の選挙は上下両院の議員を選出する総選でもあったことは、日本ではそれほど報じられていない。特に、下院議員の選出方法が「多数 2 名制」から「比例代表制」に変わったことから、これまで議会を牛耳ってきたコンセルタシオンに加えて、「チリ共産党」(PC)や、「チリ市民左派党」(ICC)などの左派政党が参加する政党連合である「新大多数派」連合、「国民革新党」(RN)と「独立民主連合」(UDI)を主軸とする「チレ・バモス」中道右派連合に属する議員だけでなく、他の少数派勢力が下院で勢力を伸ばす結果となった。与党と野党連合は議会の上下両院で過半数を得ることができなかった。この議会選挙の投票結果が、ピニェラ前大統領が当選を果たした際に、彼が掲げる改革路線の実施を阻止することになるのか、それとも、ギジェル上院議員が勝利した場合、彼が提唱するより根本的な改革の妨げになるのかについて、専門家の意見は分かれる(La Tercera 2017c)。

---

<sup>5</sup> チリでは、2013 年の総選挙から、全ての有権者の投票を義務付ける従来の制度を廃止して、有権者が自発的に投票できる自由選挙制度に変わった。

## II. 新しい選挙制度

チリ上院では可決済みであったが、下院が「多数 2 名制」から「比例代表制」に変える法案を可決したことで、バチェレ大統領の悲願である選挙制度改革が 2015 年 1 月に成し遂げられた。旧制度はピノチェト独裁政権時代の名残で、「多数 2 名制」は 2 大政党連合に有利で、得票総数で 2 位の勢力を人為的に優遇する特殊な仕組みであった<sup>6</sup>。民政移管後の選挙で独裁批判勢力が得票で多数を獲得しても、親軍政派が一定の議席を保持できるようにするピノチェト政権の狙いがあった。

旧制度のもとでは、他の小政党が議会で議席を持つことが難しかった。2015 年の改定により、新制度として比例代表制が採用され、定数は下院が 120 から 155、上院が 38 から 50 にそれぞれ増員された。上院の議員数は、現在の 38 人から 43 人に増えて、2022 年には 50 人まで増員される(Sallaberry 2017)。新しく導入された比例代表制は、ドント(d'Hondt)方式<sup>7</sup>に基づく(Molina 2017)もので、これによって選挙区が新しく設けられた。バチェレ大統領の属する「新多数派」が国会で法案可決に必要な過半数を占めていたことで実現した。

もう一つの選挙改革は、女性の政治参加を確実にする「クォータ制」が導入されたことだ。2015 年に制定された選挙法では、各連合の候補者の 40%が女性であることが制定された。その結果、女性が全候補者の約 33%を占めた(Molina 2017)。今回の選挙の結果、下院議員では 35 人となり、女性代表が 16%から 23%に増えた。しかし、上院では女性議員数が 1 人減ったことで、総上院議員の 29%から 23%に減少した(Gonzalez 2017)。イザベル・アジェンデ上院議員(PS)は再選されたが、「拡大勢力」(Amplitud)から出馬したリリー・ペレス上院議員は落選した(Velásquez 2017)。各連合政党にとって、40%の配分を満たすことは簡単ではなかった。この制度の導入は 2 年前に承認されてはいたものの、多くの政党がこの条件を満たすことで苦労したと伝えられる。「拡大社会運動」(MAS)と「人権党」(Humanista)は女性議員数の確保が遅れて、登録期間の延長を要求したほどだ(Velásquez 2017)。

いずれにせよ、選挙委員会が女性候補の参加を義務付けたことは歴史的な出来事であった。全立候補者のうち、41.3%が女性、過去平均の 11.25%を大きく上回った。政党・連立の中で、「チレ・バモス」が女性議員の割合が最も多い候補者リストを提示した。だが、それが得票に繋がったとはいえない。「国民革新党」(RN)、「独立民主連合」(UDI)、「民主革命党」(RD)からは、女性上院議員が選出されなかった。下院でも、キリスト教民主党(DC)、「拡大勢力」(Amplitud)、政治進化党(Evópoli)は、女性議員を送り込むことができなかった(Velásquez 2017)。

---

<sup>6</sup> チリの「多数 2 名制」の基では、上院、下院ともに選挙区は全て 2 人区であったことから、各政党連合は各選挙区に 2 人ずつ立候補者を立てて、有権者は各候補に投票した。1 つの政党連合が得票で 1 位、2 位を占めても、合計得票が 66%以上に達しない場合、2 議席独占はできず、次点の陣営が議席を 1 つ獲得する仕組みになっていた。

<sup>7</sup> 比例代表区選挙では政党が届けだ名簿の中からドント式(d'Hondt method)によって決まる。ドント式とは、各政党の得票を 1 から順に整数で割り、その票の大きい順に議員定数に達するまで当選人を決めていく方法である。

また、2017年の大統領選挙から海外在住の有権者が投票できるように選挙法が改定された。チリ外務省によると、今回の大統領予備選と11月19日の第1次選では、39,137人の海外有権者が投票資格を持つ。登録済みの有権者の過半数は、アルゼンチン、米国、スペイン、カナダ、オーストラリア在住者が占める。投票数が最も多かったのはバルセロナ市で、カタロニア州首都には1,852人の投票資格を持つ有権者がいる。一方、ドイツでは、ベルリン、ハンブルク、ミュンヘン、フランクフルトで投票所が設けられた。合計1,813人が投票した。日本では、114人（女性：53、男性：61）が投票した（SERVELウェブサイト）。

海外の有権者数は統計によって異なるが、チリ外務省によれば、海外在住のチリ人は約90万人と推定され、その内約36万人が投票資格を持っていると推計される。今回の大統領選挙では55か国で2万3,000人が投票した。当初、チリ国籍保有者が同選挙の最終結果を左右するかもしれないほどの規模に達すると期待された。2000年のリカルド・ラゴスとホアキン・ラビン両候補の第2次投票における票差は18万票、2010年のピニェラとフレイ両候補の場合は23万票の差に過ぎなかったからである（Rivas 2016）。しかし実際の海外投票数は大きくそれを下回ったかたちだ。海外在住の有権者が初めて投票の機会を得たが、予想に違わず投票率は低く、投票したのはチリ在外の有権者のわずか6%に過ぎなかった。候補者別でみると、ピニェラ(31%)、ギジェル(29%)、サンチェス(24%)の3候補の間に僅かな格差がみられた（Gonzalez 2017）。

上述の新しい選挙制度により、チリの政治体制がどのように変革したかは今のところ明白ではない。政界の立役者が更新されたかどうかは確かではない。「サンチャゴ市に集中し、2大学、4職業、14の学校のOBというチリのエリート層に牛耳られてきたチリ政界に変化がみられるのだろうか。チリのエリートは均質であることから、今回の選挙で政党が分断化して、それが政治体制の変革に役立つのではないか」とマリア・ハラケマダ公共政策研究所（Centro de Estudios Públicos：CEP）研究部代表は、新選挙制度がチリの政治マップを書き換える可能性を秘めていると語る（Molina 2017）。

さらに、今回の選挙から選挙制度が改新されて政治献金が規制され、それに関する情報がより透明になれば、「伝統政党の力が新興政党の力に比べて低減するはずだが、それには、国民の選挙参加意欲を高めることが重要だ。投票率が低いことで、（これまでの）改革がより控えめなものとなってしまい、重要性を欠くようになる。2大連合は現状維持を図るだろうが、より多くの有権者が投票すれば、想定外のことが起こり、不確実性が増すだろう」とマルセラ・リオス国連開発計画ガバナンスプログラム担当員は付け加える（Molina 2017）。

不正政治献金に関する新しいルールが国会で制定されたことも特記に値する。違法な政治献金問題が近年頻繁に発覚した。特に、ピノチェット大統領の元の娘婿、フリオ・ポンセ氏が会長を務めるSQM社の不正政治献金疑惑、ペンタ（Penta）グループの政治献金問題（主に野党議員らが関与）、カバル土地売買問題（バチレ大統領の息子夫妻が関与）と並び、企業と政界の癒着が明らかとなる事件が注目され、検察による捜査が進められた。異なる企業に対する不正政治献金の疑惑が明らかになり、チリ議会が政治献金に関する法案を通

過ぎさせた背景がある<sup>8</sup>。米イェール大学のエドゥアルド・エンゲル教授が率いる腐敗防止評議会によって提案された改革により、政治献金が規制され、それに関する情報が公開されて、限度額も設定された。選挙管理局のウェブサイトにも、献金額が明記されるようになった(Molina 2017)。

右派連合を率いるピニェラ候補は、フォーブス誌によると、チリで3番目に資産が多い起業家であるが、ビジネス界と政治を分離することを公約した。現政権を脅かす腐敗スキャンダルを最も強く批判する。しかし、彼の反対派は、彼がペンタ・グループとSQM社に関わる汚職事件にも関係していると強調、これらの事件で起訴された前ピニェラ政権の元閣僚を擁護していると非難する(BBC Mundo 2017)。第2任期に向けて、ピニェラ前大統領は市民の安全保障、医療、教育、交通制度を改善して、「生活の質を向上させる」ことを約束している。

いっぽうギジェル候補(64歳)は社会学者で、ジャーナリスト、テレビキャスターとして、チリのマスメディアで30年の経験を持つ人物である。アントファガスタ州から無所属の上院議員に当選したのはわずか4年前に過ぎず、政治家としての経験はそれほど深くない。「新多数党」の候補者であるが、同連合の議員と支持者の中には、無所属ではなく、より新多数派党に近い候補者の出馬を期待していたのも確かで、それがギジェル氏への不信に繋がっているとも指摘される(BBC Mundo 2017)。決選投票で勝利すれば、医療や民間年金制度を改革して、バチェレ政権が始めた教育改革を更に進めていくと考えられる。

また、元ジャーナリストのサンチェス候補は投票日の翌日、「チリの政治地図はフレンテ・アンプリオのおかげで、以前とは異なるものになった」、「我々は、フレンテ・アンプリオに属する人々だけでなく、私自身のように、同連合とは独立した組織であると考えている人々と幅広い対話を望んでいる」と語った。しかし、サンチェス氏は、ピニェラ候補は「国の挫折」を象徴する候補だという意見を表明、「チレ・バモス」中道右派連合は「チリに害を及ぼす」と述べたうえで、「大統領候補になる2年前から、このことを指摘してきた」とピニェラ候補を真っ向から批判する(BBC Mundo 2017, Molina 2017)。

### III. 総選挙結果について

11月19日の選挙は、「新多数派」<sup>9</sup>が「急進社会民主党」(PRS)、チリ共産党(PC)、チリ社会党(PS)、民主主義のための政党(PPD)で構成される「多数派勢力」(La Fuerza de la Mayoría)と、キリスト教民主党(DC)、「チリ市民左派党」(IC de Chile)、「拡大社会運動」

---

<sup>8</sup> チリ有数のリチウム生産企業SQM社が2009年以降、100人近くの与野党議員らに対する不正政治献金に関与していた疑いが2015年1月に発覚した。SQM社による不正政治献金は与党を巻き込んで行われていた可能性があり、国民の政治不信は政界全体に広がりを見せた。事態の拡大を受け、2015年3月16日、パトリシオ・コンテッセ総支配人は現職を辞任した。同月23日には、フリオ・ポンセSQM社会長が28年勤めた同社を辞任した。

<sup>9</sup> 「新多数派」連合は、「コンセルタシオン・デモクラシア」に参加していた政党に加え、チリ共産党や市民左派など左派政党が参加した政党連合で、2013年に結成された。

(Mas Región)で構成される2ブロックの候補者リストで戦われたことに留意したい。キリスト教民主党が「新多数派」連合と距離をおいて独自の候補を立てたことで、これまでの「コンセルタシオン」連合に亀裂が入ったことは興味深い。

一方で、「チレ・バモス」連合は、「変革のための同盟」(Coalición por el Cambio)を前身とする右派及び中道右派勢力による政党連合であり、国民革新党((RN)、「独立民主連合」(UDI)、「地方独立党」(RI)、「政治進化党」(Evápoli)の4政党で構成される。これらの2大連合に加えて、6政党で構成される「拡大戦線」連合が新興左派勢力として独自の候補者を立てた。合わせて9つの政党・連合の立候補者の中で選挙が戦われた(図表1を参照)。

## A. 大統領選挙

大統領選には8人が立候補したが、キャンペーン中は多くの世論調査会社の予測では上位2人の候補者の間に20%以上の開きがあったが、最終的には14%という結果にとどまった。与党連合の「多数派勢力」(Fuerza de la Mayoría)の支持を得たギジェル候補は予想どおり23%を獲得したが、当初支持率が大幅に過小評価されていたのは、結果的に3位につけたサンチェス候補だった。新左翼の「拡大戦線」を率いるサンチェスは20%の得票率を獲得したが、世論調査社 CADEM は彼女の得票率を13%、シンクタンクである CEP 社は8.5%と予測していた。

多大な影響力を持つ CEP 社の予測が実際の得票率とあまりにもかけ離れていたことが、サンチェス候補が3位に甘んじた現実と深い関係があるとサンチェス陣営は批判の声を強めた。仮に CEP 社の予測がより高いものであれば、投票率全体も46%より高くなって浮動票が彼女に流れ、ギジェル候補を追い越して2位で当選、ピニェラと決選投票を戦うことになっていたかもしれない。「もし彼ら(CEP社)が真実を予測していれば、おそらく2位につけたはずだ」とサンチェス氏は、CEPが浮動票を読み間違えたことで、敗戦に追い込まれたと語った(Gonzalez 2017)。サンチェスの投票率を約8%と予測した CEP 社の責任者であるロベルト・イズキソン氏は、サンチェス氏に陳謝した。

ピニェラ前大統領が全体で36.7%の票を獲得、全国15州において最多票を得たことを彼の陣営は高く評価している。だが、有権者数が最も多いサンチャゴ首都圏とバルパライソ州では、それぞれ36.1%、34.6%と全国平均を下回った。州別で見ると、得票率にはそれほどバラツキがない。アタカマ州やアラウカニア州では41%を超える高い得票率であったが、アリカ・パリナコタ州やマガヤネス・アンタクティカ州では30%を割った。有権者総数の41%を占めるサンチャゴ首都圏では、ビタクラ区、ラスコンデス区、バルネチェア区など富裕層が集中する選挙区で圧勝している。決戦ではその他の都心区と地方区で票を伸ばせるかどうかにかかっている。

ギジェル上院議員の得票率は全国で22.7%であったが、サンチャゴ首都圏とバルパライソ州で支持票がそれぞれ21.9%、21.1%と伸び悩んだ。それに対して、サンチェス候補は両州でそれぞれ22.8%と25.8%の票を獲得しており、投票総数の52%を占める両選挙区においてギジェル候補の得票数を上回った。タラパカ州でも僅かだが、サンチェス票が多かった。

お膝元のアントファガスタ州でもギジェル得票率は24.5%に過ぎない(図表2を参照)。ギジェルが決選投票で勝利するには、サンチャゴ首都圏とバルパライソ州でサンチェス候補が獲得した約80万票をいかに取り込むことができるかどうかだ。

図表2：第1ラウンド大統領選挙の結果、得票数、得票率(%)、候補者別、州別  
(開票率99.94%)

| 州名                            | 候補者名  | CAROLINA<br>GOIC | JOSÉ ANTONIO<br>KAST | SEBASTIAN<br>PIÑERA | ALEJANDRO<br>GUILLER | BEATRIZ<br>SÁNCHEZ | MARCO<br>E-OMINAMI | EDUARDO<br>ARTÉS | ALEJANDRO<br>NAVARRO | 投票数<br>合計 | 白票数    | 無効票数   |
|-------------------------------|-------|------------------|----------------------|---------------------|----------------------|--------------------|--------------------|------------------|----------------------|-----------|--------|--------|
| Arica Y Parinacota            | 有効票   | 2,932            | 8,279                | 21,519              | 18,596               | 17,114             | 4,654              | 256              | 321                  | 73,671    | 346    | 695    |
|                               | 州別得票率 | 3.98             | 11.24                | 29.21               | 25.24                | 23.23              | 6.32               | 0.35             | 0.44                 | 100.00    |        |        |
| De Tarapacá                   | 有効票   | 3,404            | 8,704                | 34,710              | 20,132               | 20,358             | 6,277              | 422              | 232                  | 94,239    | 340    | 788    |
|                               | 州別得票率 | 3.61             | 9.24                 | 36.83               | 21.36                | 21.60              | 6.66               | 0.45             | 0.25                 | 100.00    |        |        |
| De Antofagasta                | 有効票   | 6,805            | 14,365               | 61,108              | 43,394               | 39,069             | 11,958             | 731              | 432                  | 178,082   | 597    | 1,622  |
|                               | 州別得票率 | 3.82             | 8.07                 | 34.31               | 24.48                | 21.94              | 6.71               | 0.41             | 0.25                 | 100.00    |        |        |
| De Atacama                    | 有効票   | 3,673            | 4,002                | 41,122              | 26,438               | 18,482             | 5,064              | 507              | 293                  | 99,571    | 724    | 886    |
|                               | 州別得票率 | 3.89             | 4.02                 | 41.30               | 26.53                | 18.36              | 5.09               | 0.51             | 0.28                 | 100.00    |        |        |
| De Coquimbo                   | 有効票   | 16,237           | 11,638               | 93,654              | 68,668               | 47,794             | 13,114             | 1,267            | 740                  | 253,132   | 1,887  | 2,587  |
|                               | 州別得票率 | 6.41             | 4.60                 | 37.00               | 27.13                | 18.88              | 5.18               | 0.51             | 0.29                 | 100.00    |        |        |
| De Valparaíso                 | 有効票   | 37,085           | 32,912               | 247,355             | 151,265              | 184,988            | 37,171             | 3,647            | 1,555                | 716,208   | 3,412  | 6,506  |
|                               | 州別得票率 | 5.18             | 7.39                 | 34.56               | 21.12                | 25.83              | 5.19               | 0.51             | 0.22                 | 100.00    |        |        |
| Metropolitana De Santiago     | 有効票   | 149,600          | 181,339              | 974,721             | 593,602              | 614,197            | 168,294            | 14,718           | 5,915                | 2,698,335 | 11,889 | 26,339 |
|                               | 州別得票率 | 5.54             | 6.72                 | 36.12               | 21.85                | 22.76              | 6.23               | 0.53             | 0.22                 | 100.00    |        |        |
| Del Libertador Bdo. O'higgins | 有効票   | 22,560           | 19,546               | 138,685             | 81,698               | 63,649             | 19,186             | 1,594            | 947                  | 348,165   | 2,405  | 3,311  |
|                               | 州別得票率 | 6.48             | 5.70                 | 39.83               | 23.47                | 18.28              | 5.51               | 0.46             | 0.27                 | 100.00    |        |        |
| Del Maule                     | 有効票   | 26,540           | 30,989               | 160,164             | 97,546               | 60,000             | 23,368             | 1,884            | 1,303                | 402,084   | 3,730  | 4,335  |
|                               | 州別得票率 | 6.63             | 7.71                 | 39.83               | 24.26                | 14.94              | 5.81               | 0.49             | 0.32                 | 100.00    |        |        |
| Del Bío Bío                   | 有効票   | 49,594           | 88,594               | 295,821             | 178,300              | 136,721            | 41,470             | 3,891            | 8,974                | 793,365   | 6,033  | 8,786  |
|                               | 州別得票率 | 6.25             | 11.17                | 37.29               | 22.47                | 15.97              | 5.23               | 0.49             | 1.13                 | 100.00    |        |        |
| De La Araucanía               | 有効票   | 14,135           | 46,345               | 151,826             | 76,405               | 45,899             | 18,128             | 1,674            | 1,384                | 355,316   | 3,504  | 4,304  |
|                               | 州別得票率 | 3.98             | 13.02                | 42.67               | 21.47                | 12.90              | 5.00               | 0.47             | 0.39                 | 100.00    |        |        |
| De Los Ríos                   | 有効票   | 10,060           | 15,791               | 54,063              | 40,256               | 24,195             | 6,917              | 791              | 500                  | 132,573   | 1,204  | 1,577  |
|                               | 州別得票率 | 6.59             | 10.35                | 35.43               | 26.38                | 15.86              | 4.53               | 0.52             | 0.33                 | 100.00    |        |        |
| De Los Lagos                  | 有効票   | 23,133           | 30,207               | 105,434             | 72,719               | 48,872             | 15,080             | 1,583            | 1,023                | 298,071   | 3,025  | 3,076  |
|                               | 州別得票率 | 7.77             | 10.13                | 35.37               | 24.40                | 16.40              | 5.06               | 0.53             | 0.34                 | 100.00    |        |        |
| Aysén Del Gral. Carlos Ibáñez | 有効票   | 3,314            | 2,892                | 12,719              | 10,669               | 5,851              | 1,632              | 189              | 129                  | 37,395    | 370    | 316    |
|                               | 州別得票率 | 8.86             | 7.73                 | 34.01               | 28.53                | 15.65              | 4.36               | 0.51             | 0.34                 | 100.00    |        |        |
| De Magallanes Y Antártica     | 有効票   | 7057             | 5813                 | 15730               | 14073                | 13736              | 3444               | 730              | 118                  | 60,750    | 243    | 525    |
|                               | 州別得票率 | 11.82            | 9.57                 | 25.89               | 23.17                | 22.64              | 5.67               | 1.25             | 0.19                 | 100.00    |        |        |
| 全国合計                          | 有効票   | 386,278          | 521,716              | 2,408,831           | 1,489,991            | 1,331,035          | 375,087            | 33,538           | 23,876               | 6,570,357 | 39,709 | 65,633 |
|                               | 全国得票率 | 5.88             | 7.94                 | 36.66               | 22.68                | 20.26              | 5.72               | 0.51             | 0.36                 | 100.00    |        |        |

出所：筆者が選挙管理当局 (SERVEL) のデータから作成。

得票数で3位につけたサンチェス候補が世論調査で過小評価されていたことは間違いな  
い。したがってギジェル候補が決選投票で勝利をおさめるには、第1ラウンド投票で20%  
だったサンチェス候補の支持票の獲得が必要となる。もともとは有権者の選挙への関心度  
も低い中、世論調査で大きくリードしていたピネラ前大統領が、40%もの得票率を獲得  
して12月17日の決選投票に持ち込むというのが一般的な筋書きだった。ピネラ陣営の中  
には、過半数を獲得して第1ラウンド投票で勝利する可能性もある、との楽観的な見方  
もあった。しかし、最終的には、中道左派が支持するギジェル上院議員との得票率の差は、  
選挙戦以前に予想されていたものよりも遥かに小さかった。新しい左派連合を率いるサン  
チェスの支持票がギジェル支持に回るかどうかが決選投票結果の最大の鍵となる。

「拡大戦線」連合は、この予期されていなかった選挙結果により、12月17日の大統領選  
挙において強力な交渉力を持つこととなった。19日の開票後にサンチェス拡大戦線代表は、  
「フレンテ・アンプリオは(一時的なものではなく)、これから政党連合として存在感を強め  
ていく。すべては始まったばかりだ」と何百人の支持者に訴えた。元ジャーナリストのサン  
チェス代表は、ギジェル氏とはテレビ番組のパネリストとして出会って以来友人関係を

維持している。選挙結果を祝うために彼に電話したものの、支持表明には慎重であり、彼を支持するかどうかについては、同連合内部での討論が行われるべきだと主張してきた。「拡大戦線」の台頭で、コンセルタシオンの覇権が終わったとの見方も出ている(Fernández 2017)。

彼女が率いる連立は 13 の異なる政党や運動で構成されており、そのうちの幾つかの政党は「新大多数派」連合とは政策上で相容れないところがあるため、サンチェス支持者の全てがギジェル支持に回るとは限らない。同様に、キリスト教民主党(DC)は、今年初めに「新大多数派」連合から撤退し、「民主派収束」(CD)連合と呼ばれる独自の連合候補を立てた背景がある。よって、ゴイック支持票の一部がギジェル候補に回らない可能性もある。投票日の翌日 20 日に、ゴイック党首は DC 代表を辞任し、ギジェル支持を表明した(O'Boyle 2017, Gonzalez 2017)。

同選挙においては、サンチェス候補の飛躍が唯一の驚きではない。ピノチェト軍事政権と個人的な関係を築いてきた極右翼のカスト候補が投票の 8% を獲得した。世論調査ではわずか 2~3% しか達していなかった。サンチェスとカスト両候補を合わせると、前例のない約 3 分の 1 の投票が、民主主義への復帰以来チリ政治を支配してきた 2 大連合とは関係ない候補者に投じられたことになる。「これはチリの中道のガバナンスモデルが少なからず憔悴してきており、一部の有権者がより極端な変化を望んでいることを示している」とエコノミスト・インテリジェンス・ユニットのラテンアメリカ・アナリスト、マーク・ケラー氏は説明する(O'Boyle 2017)。

無所属のギジェル上院議員は、「チリは（これまでと違った）別の道を望んでおり、それが投票に反映されている」と述べた。与党連合に参加する 7 政党のうち、6 政党が支持候補である。また、サンチェス、ゴリック、マルコ・エンリケス・オミナミ(PRO)の中道左派や左派の 3 人の候補者が得た投票数を合わせると、12 月 17 日にピニェラ候補に勝利できると期待する(BBC Mundo 2017)。

## B. 上下両院議員選挙

今回の選挙でチリ議会が生まれ変わったことは間違いない。チリの有権者は、下院の 155 議席、上院議員 43 議席のうち 23 議席を選出した。上下両院を合わせると、109 人の新議員が選出され、69 人が再選された。チリが 1990 年に民政移管して以降、現職議員が再選された割合が最も低い結果となった。新しい顔ぶれが増えたのは今回初めて導入された比例選挙制度の結果である。新制度によって、チリの選挙地図が再構成され、政党の多様化と少数代表への道が開かれ、40 議席が新しく議会に追加された(Gonzalez 2017)。

チリ議会は以前に比べて多くの政党で構成されるようになり、政党数は 12 から 16 に増えた。サンチェスが率いる左派の「拡大戦線」連合は、下院ですでに 3 人の議員を擁していたが<sup>10</sup>、今回の選挙で 20 人まで議員数を増やし<sup>11</sup>、議会で有力な勢力と成りつつある。

<sup>10</sup> 下院では、2013 年の選挙でジョルジョ・ジャクソン(Giorgio Jackson)、ガブリエル・ボリック(Gabriel

これは新しく設定された 155 議席の 13%を占める勢力まで票を伸ばした。また、バルパライソ州から民主革命党(RD)のホアン・ラトーレ候補が上院議員に選出された(Fernández 2017)。

「チレ・バモス」右派連合は下院で 72 議席、「新多数派」連合は 43 議席を獲得した。上院では、「拡大戦線」に 1 議席が追加され、「チレ・バモス」に 12 議席、「新多数派」に 7 議席が追加された。過半数には届かなかったが、保守連合が上院議員の 44%、下院議員の 47%を占める結果となった(Gonzalez 2017)。新選挙制度により政党数が増えたことで、議会での合意が難しくなり、政党間の交渉も複雑化すると予想される。「拡大戦線」連合に属する下院議員が 3 人から 20 人に増えて、議会で重要な勢力となりつつある(Sallaberry 2017)。

サンチャゴやプロビデンスアなどを含む 10 地区で立候補した元学生運動指導者のジャクソン氏が最多票を獲得したことにも留意したい<sup>12</sup>。彼が属する民主革命党(RD)は、民主主義のための政党(PPD)、共産党(PC)、急進社会民主党(PRS)の議員数を上回る結果となった。実際、「拡大前線」は下院で 3 大勢力の一つとなったが、下院での DC 議員や「新大多数」連合のリベラル派議員と融合することがあれば、だれが次期政権を担うかには関係なく、議決に必要な過半数を確保することで同連合の交渉力が拡大する。上記のように、「チレ・バモス」連合は下院で 72 議席を確保、DC と「新大多数派」連合は合わせて 57 議席を獲得した。この議席配分からして、20 議席を確保した「拡大戦線」の勢力が議会決議で重要な役割を果たすことは間違いない(Fernández 2017)。

新しい選挙制度の特徴の 1 つである「ドント」方式に基づく比例代表制の導入で、民主政治復帰後初めて、新議員の 20%が 5%以下の低い得票率で議席を獲得できた。選挙管理当局の推算によると、19 日の選挙で選出された議員のうち、31 議席が 5%の得票率を下回る低率で選出された。例えば、選挙区 10 区でジョルジオ・ジャクソン(民主革命党: RD)が 23.7%の高得票を獲得して当選したとは対照的に、同党候補のゴンザロ・ウィンター、ナタリア・カスティージョ両候補は、それぞれ 1.2%と 1.02%の投票率で当選を果たした。チリ共産党(PC)候補であるボリス・バレーラ(1.29%)、アマロ・ラブラ(1.82%)、そして国民革新党(RN)候補のカリン・ラック(1.82%)、独立民主連合(UDI)のファン・マヌエル・フエンサリダ(1.86%)議員が続く(Álvarez 2017b)。

---

Boric)、ブラド・ミロセビッチ(Vlado Mirosevic)の 3 人が選出されている。

<sup>11</sup> サンチェス氏が率いる連立からは下院で、ブラド・ミロセビッチ(自由党: Partido Liberal)、カタリベレス(民主革命党: RD)、マガヤーネス・エスピノサ(民主革命党: RD)、ディエゴ・イバニェス(人権党: PH)、ホルヘ・ラウルド(平等党: PI)、ホルヘ・ブリト(民主革命党: RD)、クラウディア・ミックス(権能党: PODER)、パブロ・ビダル(民主革命党: RD)；マイテ・オルシニ(民主革命党: RD)、ジョルジオ・ジャクソン(民主革命党: RD)、ゴンザロ・ウィンター(自治運動党: Movimiento Autonomista: MA)；ナタリア・カスティージョ(民主革命党: RD)、トマス・ハーシュ(人権党: PH)、パメラ・ヒレス(人権党: PH)、ミゲル・クリスピ(民主革命党: RD)、ガエル・ヨーマン(絶対自由主義左派党: Izquierda Libertaria)、レナト・ガリン(民主革命党: RD)、フェリックス・ゴンザレス(グリーン環境党: PEV)、アレハンドロ・ベルナルス(チリ自由党: PL)とガブリエル・ボリック(自治運動: MA)が選出された(Fernández 2017)。

<sup>12</sup> 彼は、2010~11 年に、カトリック大学の学生連合(FEUC)会長を務め、2011 年の学生運動のリーダー的な役割を果たした。チリ学生連合(CONFECH)の広報担当でもある。2013 年の議会選挙で、サンチャゴ・セントロ区で下院議員として当選。2017 年に議会選挙では、ニュニョア、プロビデンスア、サンチャゴ、マクル、サン・ホアキン、ラ・グランハの 6 地区を含む新しい第 10 区で下院議員に選出された。

11月19日の議会選挙で、109人の新しい議員が選出されたが、彼らの多くがこれまで国会で活躍したことがない若い地方指導者であることは興味深い。議員の平均年齢は48.7歳で、2013年に選出された議員の年齢とほぼ変わらない。職業別でみると、弁護士31人、エンジニア21人、医師7人、教員10人、芸術家3人、俳優3人、ミュージシャン2人、スポーツ選手2人(セバスチャン・ケイテルとエリカ・オリベラ)が下院議員に含まれている(Sallaberry 2017)。

今回の選挙では84人の国会議員が再出馬した。つまり、民政に移行して以来、古顔が占めた割合が最も低い選挙となった。議会改革によって、下院は92人の新議員と63人の前元議員で構成される。上院では17人の新顔が当選し6人の上院議員が再選された。上院では、奇数番号の州で投票が行われ、これらの議員数が偶数州の議員数に加えられる。この制度は上院の他の半分が更新される2022年まで継続される(Sallaberry 2017)。議員経歴が長い議員も再選されている。1990年から議員として32年間務めるフアン・アントニオ・コロマ議員(UDI)、議員歴が長いイザベル・アジェンデ社会党上院議員も再選された。レネ・ガルシア(RN)、パトリシオ・メエロ(UDI)も再選された。一方で、ホセ・ミゲル・オルティス(DC)、セルヒオ・オヘダ(DC)、ホルヘ・ウジョア(UDI)などの議員が落選した(Sallaberry 2017)。

#### IV. 保守派とリベラル派の勢力関係の推移

11月19日の選挙は、チリが民政に復帰して以来、大統領選挙への参加率が最も低い46%(約660万人)に終わったことは既に述べた。政治評論家のパトリシオ・ナビア氏は、今回の結果はチリで政治と政治家に対する不信感と不満が顕著になる一方で、一般的には正しい方向に進んでいると見ており、誰が大統領に選ばれたとしても、基本的には政策に大きな転換はないとチリ国民が理解していることを反映していると主張する。「投票率が低いときは、政治経済状況は順調だからだ」。「チリ人のほとんどが満足している。もちろん、国がより良くなることを望んでいるが、彼らには危機感はない」とナビア氏は語る(Gonzalez 2017)。

左派に新しい風を吹き込んだ「フレンテ・アンプリオ」の台頭で、保守派とリベラル派との力関係に大きな変化が生じたとの見方が強いが、有権者の支持率が長年に渡り、保守・リベラル間で大きな変化が見られないのも確かだ。ピノチェト元大統領が引き続き政権を担うかどうかを問う国民投票が1988年に行われたが、保守・リベラルの支持比率は、今回の選挙をみても、それほど変化していないことが分かる。11月19日に第3政党として「拡大戦線」が出現したにもかかわらず、保守・リベラル派の支持率は安定している。今回の選挙結果は2009年と1989年の総選挙、そして1988年の国民投票の投票結果とそれほど変わらない。今大統領選第1ラウンドの投票では、中道左派が55%、中道右派が44%の得票率を獲得したが、両者間の比率は長年変わっていない(Vilches 2017)。

ピノチェト大統領の政権続行を問う1988年10月5日の国民投票において、投票率

97.53%の内、反対票「NO」を選んだ中道左派の有権者による得票率が55.99%に上った反面、保守と中道右派の支持を受けた賛成票「SI」は44.01%を獲得した。その後民主政治に復帰して以来、初めての大統領選挙が1989年12月14日に行われた。「コンセルタシオン」代表として立候補したキリスト教民主党的パトリシオ・エイルウイン元上院議長は、ピノチェト政権で財務相を務めたエルナン・ビッチ(Hernan Büchi)、中道右派の起業家フランシスコ・ハビエル・エラスリスと選挙戦を争った。エイルウイン候補は55.17%、2位のビッチ候補は29.4%、3位のエラスリス候補は15.43%に終わった。中道右派の2候補者支持票の合計は44.83%だった。ここでも55:44の比率は保たれた。

民政に復帰して以来、右翼候補が初めて勝利したことで、2009年の総選挙はチリの歴史に残るだろう。同年12月13日、「変化のための連合」(Coalición por el Cambio)(旧称は同盟: Alianza)のセバスチャン・ピニェラ(RN)候補は44.06%の得票率、エドアルド・フレイ・ルイスタグレ元大統領(DC)候補は2位で29.6%、無所属として立候補したマルコ・エンリケス・オミナミ候補が20.14%、ホルヘ・アラータ(PC)が6.21%を獲得した。右派はピニェラ候補を単一候補として集結したが、中道左派の3候補の票は合わせて55.95%に上った。この得票率が決選投票に繋がっていれば、フレイ大統領の第2期政権が誕生したはずだった。しかし、最終結果はそれとは異なった。2010年1月17日の投票では、ピニェラ氏が51.61%を獲得、フレイ元大統領は48.39%に終わった。第1ラウンドで示された有権者の政治的志向がそのまま決選投票に反映されるとは限らないことが分かる。

2017年12月の決選投票のシナリオとして、2009年の結果が繰り返される可能性がある。今回の選挙では、右派からは2候補者が立候補したが、左派はより大きく分裂した格好だ。前述したように、ピニェラ候補は36.64%を獲得、ギジェル候補は22.70%の票を得て決選投票に臨むことになる。サンチェスの20.27%、カストの7.93%、ゴイックの5.88%、オミナミの5.71%、アルテスの0.51%、ナバロの0.36%の獲得票がどのようにピニェラとギジェル両候補に分かれるかは今のところ定かではない。決選投票で、中道、左派政党を支持した有権者(サンチェス、ゴイック、オミナミ、アルテス及びナバロ)票がギジェル候補に集まれば、55.43%に達する。一方で、カスト票がピニェラに流れたとしても、44.57%にしか達せず、1988年以來の投票動向が繰り返される可能性がある。

ロイター通信によれば、ピニェラ前大統領は、「今回の結果は(同氏が立候補し、エドアルド・フレイ候補に勝利した)2009年の選挙によく似ている、この時は(決選で)我々が勝った」と述べ、振り返りに自信を示した。一方のギジェル上院議員は、「ピニェラ氏(選出)は国の後退だ」と述べ、今回の選挙で分裂した左派勢力の結集を呼び掛けた。3位につけたサンチェス票がどのように流れるかは今のところ不透明であるが、彼女は選挙戦でピニェラ候補が最終的に選出されることだけは是非とも避けたいとしながらも、「新多数派」連合との連携に慎重な姿勢みせている。「拡大戦線」連合が得た投票数が重要なのは、20%台に達した得票率だけでなく、ピノチェト政権が導入した「多数2名制」の終焉を示唆するものであるからである。「最も興味深いのは、これからピニェラとギジェルがどの勢力と交渉するかである。サンチェスが率いる連合は、この種のロビー活動に反対しており、同連合が獲得した投票数が決選投票の行方を左右する」とパウラ・モリーナ BBC 特派員は語る(Molina 2017)。

今回の議会選挙が新しい方式で行われたことで、「拡大戦線」などの新勢力の台頭が可能となり、27年前から2大政党・連合に支配されてきたチリ政治は新しい局面を迎えたと言える。スペインの「ポデモス」(Podemos)と似た側面がある。ピノチェト軍事政権の継承を拒否、民政移行後に誕生した中道左派政権との合意も拒否する連合ができたことになる。「今回の選挙で、チリの政治体制がより分散されて新しい制度が生まれ変わった。旧制度においては、2大政党連合間での合意と交渉が優先されたが、これからは2大政党連合が少数派と交渉しなければならない」とハラケマダ CEP 研究部代表は語る(Molina 2017)。この政治体制の再編の鍵となったのは、1989年から続いた「多数2名制」がドント方式に基づく比例代表制に変わったことによる。理論的には、新制度は伝統的な政治に幻惑した有権者が多い右派と左派両者の新しい流れに有利に働いたことになる。

## V. バチェレ政権下で進められた政治経済改革との関係

今回の選挙結果は、バチェレ大統領が進めてきた様々な改革が期待されたほど進まなかったことに対する有権者の不信感を反映するものと指摘される。「バチェレ大統領は、全て可能な改革を約束、国民に期待を抱かせたが、多くの国民、特に中産階級が改革に対して懐疑的になる中で、それらを見直すことはせず、その必要性を主張し続けた」とエウヘニオ・グズマン、サンチアゴ開発大学教授が語る。バチェレ大統領は、「経済、インフラ、公共サービス、日常生活を犠牲にして、改革に集中したイメージが強い」と政治アナリストとして知られるエウヘニオ・ティロニ氏は述べる(Pardo 2017)。

選挙ルールの変更は、バチェレ大統領が推し進めてきた税制、労働、教育の改革、そして、彼女の政権下で達成された中絶の非犯罪化などに関して、国民の意見が対立する時期と一致した。特に、中絶の非犯罪化はチリ政治の分裂を起こした改革の1つであった。これらの改革の内容と速度、「深さ」の問題が1990年に軍事政権が終結して以来、社会党派とキリスト教民主党派との闘争の種となってきた。前者はギジェル上院議員、後者はゴイック上院議員を大統領候補に立てた。左派の中には、これらの改革が不十分だと考える候補者がいたことは事実だ。その中には、サンチェス氏、無所属のナバロ上院議員、アルテス教授、そして、オミナミ PRO 代表の4人が含まれる(Molina 2017)。

「新多数派」政権は、教育、税制、憲法及び労働の分野で抜本的な改革を図ってきた。バチェレ大統領は、憲法改正に関して次の3項目を2013年の大統領選挙戦で挙げた。1)法案の可決及び新法制定に必要な票数の統一(以前は法律によって可決のために必要な票数が異なっているため、これを統一する)、2)憲法裁判所が行っている、議会を通過した法案の合憲性判定制度の廃止、3)同性婚に関する議論の促進及び合法化である。既に述べたように、バチェレ政権の下で多数2名制の廃止や議員数及び選挙区割の変更等を規定した選挙制度改革法案が2015年2月に上下両院において可決され、2017年の上下両院議員選挙から新制度が適用された。また、如何なる中絶も違法とみなしてきた世界6か国の1つであるチ

りで、人工妊娠中絶の合法化法案<sup>13</sup>が議会を通過した。「新多数派」連立政権は、この4年間に議会で過半数を占めたこともあって、バチェレ大統領は、改革を実施するのは今しかなく、再びそのチャンスは訪れないと判断したのであろう(Pardo 2017)。経済面では、社会格差の是正に必要な財源を確保するために、バチェレ大統領は税制改革を2014年に導入した。

バチェレ大統領は選挙戦で最も重要な公約として教育改革を掲げた。同大統領は、第1次政権(2006～10年)が始まった時期に、学制服の姿をもじってか、「ペンギン革命」の呼称で知られる高校生の抗議デモが頻繁に起こるようになり、その対応に苦しんだ背景がある。これらの学生運動は、後任のピネラ大統領の任期(2010～14年)中にさら激化したが、バチェレ大統領第2次政権では、学生の不満に耳を傾け、教育制度の改革に踏み切る姿勢となった。高校生と大学生による大規模なデモが続いたが、多くの国民の支持を得る運動にまで発展していった(Smink 2015)。

バチェレ大統領は、学生が強く要求した教育無償化を教育制度の抜本的な改革をキャンペーンで公約した。チリだけでなく、南米全体で最も深刻な問題である不平等の根源と考えられる教育制度の改革に乗り出す。ピノチェト前大統領が高等教育の無償化を1981年に廃止して以降、チリの全ての大学、そして多くの中等教育においても、高額の入学金と授業料が徴収される。経済協力開発機構(OECD)は、チリを世界で最も高額な高等教育が余儀なくされる国の一つに挙げていた。教育・コミュニケーション NGO ディレクターのマリオ・ガルセス・ドラン氏によると、チリの教育制度は「社会の流動性を高めるメカニズムではなく、不平等を再生するシステムになっていた」と語っている。学生達は教育の無償化と質の向上を要求して、2011年からデモを行うようになる(Smink 2015)。

大統領就任後の2015年1月、教育制度改革法案が上下両院で可決された。同法案では、1部の伝統的進学校を除く補助金受給私立校における選抜試験が廃止された。補助金受給私立校での営利追求が禁止された。2016年に上下両院で高等教育の無償化に向けた法案が可決され、対象となっている高等教育機関に所属し、家庭の所得水準が下位50%である学生の学費の無償化が承認された。だが、バチェレ政権は公約通りに無償化の領域を広げることは出来なかった。新興左派勢力は、中途半端に終わった教育改革の完結を要求する。

チリでは年金制度に不満を持つ国民も少なくない。チリは1981年に賦課方式の給付建て年金を段階的に廃止する一方で、民営化による個人勘定を持つ積立方式を抛出建て年金に切り替えた。運用利回りの悪化に対する対応、手数料の高さ、財政負担などの問題に加えて、毎月の掛金を払い込むことができるのは労働者の40%に過ぎなかったことから、2008年の改革で強制加入となった。市場経済の動向に大きく左右される民営化された年金制度について不満を抱く国民は多いが、バチェレ第2次政権は、抜本的な年金改革を実施することはできなかった。

医療制度においても抜本的な改革が必要だと考える国民は多い。チリの医療制度は、国

---

<sup>13</sup> 同法により、中絶が、1)母体の健康と命の危険性がある場合、2)胎児が子宮外で生存不可能な場合、3)レイプによる妊娠の場合の3ケースに限って、認められるようになった。

民の約 8 割を占める公的保険(FONASA)と約 14%が加入する民間保険(ISAPRE)で構成される<sup>14</sup>。FONASA の月々の保険料は扶養家族の有無にかかわらず、基本給の 7%が原則だが、その適用および医療サービス費の負担は加入者の収入により異なる。一方、ISAPRE の場合、本人および扶養家族の年齢、性別、既往症・持病の有無などにより、異なる保険会社(現在 6 社)の多様なプランの中から希望するものを選んで加入できる。被保険者への医療サービスについて平等アクセス、治療の質を保証するために、様々な改革が試みられてきたが、未だに大きな開きがあり、多くの国民は両システム間での融合性を期待している。

## VI. 今後の見通し

ピネウラ前大統領は選挙戦で多くを公約した。成長を加速し、貧困が激減し、何千人もの新しい「質の高い」雇用が創出されると約束した。同時に、法人税を削減、年金制度を改善させて、ほとんどの学生に無償の高等教育を提供すると明言した。それらを達成するには財政黒字によって賄われることで、失業率が高まることはないとは主張する。彼の選挙マニフェストは株価を押し上げたが、有権者を説得するには不十分だった。「ピネウラ候補が決選投票で勝利すると確信していたアナリストは多かった。だが、それが確かなものでないよう状況は変わってきている。決選投票の確立は 50/50 だ」とクリストバル・ベロリオ、アドルフ・イバニエス大学教授は予測する(Sanders and Quiroga 2017)。

本年 11 月末に行われた CADEM 社の世論調査によると、ピネウラ候補の支持率は 39.8%で、ギジェル候補の 37.3%を 2 ポイントほどリードしている。浮動票は 22.9% に及ぶ。「チレ・バモス」候補が 2 ポイントリードしているが、「次期大統領は誰が望ましいか」の質問に、ピネウラ候補が 49%、ギジェル候補が 41%で、より大きい格差が出ている。第 1 ラウンド投票で間違った予測を出した CADEM 社だけに、今回の調査結果は包括的なものではないとしている(Álvarez 2017a)。

ピネウラ前大統領が 3 月 21 日に選挙に出馬する計画を発表して以降、減税措置が投資、成長、企業利益を復活させることを期待して IPSA 指数が 20%も上昇した。フォアン・アンドレス・カミュ、サンチャゴ証券取引所会長は、ピネウラ氏が敗北した際には、「株価が暴落する可能性は高い」とみている(Sanders and Quiroga 2017)。だが、銅価格が再び上昇基調にあり、チリ経済の見通しは、誰が大統領選に勝つかにかかわらず、良好だと言える。ピネウラ候補はチリ経済を好転させることが出来ると自信を示しており、2025 年までにチリが先進国の仲間入りを果たすと宣言する。バッチレ大統領の第 1 政権期に、アンドレ・ベラスコ財務相(当時)が、チリの 1 人当たり所得がポルトガルのそれに追いつくと述べたことがあった。ピネウラ前大統領は 3 年後の 2010 年にさらに野心的で、その目標達成は 2018 年になると宣言したことがある(Sanders and Quiroga 2017)。

第 1 ラウンドの大統領選挙の驚きの結果は、チリがラテンアメリカで起こりつつある反体制(anti-establishment)への流れを免れていないことを示唆している。政治家として経験

---

<sup>14</sup> その他の保険(軍部のための保険など)が 3.0%、未加入・不明は合わせて 4.5%に過ぎない。

が浅く、「拡大前線」のような新興左派勢力がチリ有権者に受け入れられることはないともみていた専門家の見方が大きく崩れた格好だ。サンチェス支持が予想以上に高かったことは、チリでは中道政権を受け入れる用意が未だに出来ていないことを示唆している。インターアメリカン・ダイアログのブルーノ・ビネッティ調査員は、「チリはラテンアメリカで起こっている反体制感情の波から免れなることができないだろう」と述べる(O'Boyle 2017)。

サンチェス支持者は、バチェレ大統領がチリを変えようと改革に努力したことを評価しながらも、(その改革路線を)さら進める必要があると訴える(O'Boyle 2017)。国民が政治と政治家に抱いている不信と不満は、投票率においても明らかになった。4年前の総選挙で記録された49%をさらに下回り、46%に終わったことでも分かる。チリが民政に復帰して以来、投票率は着実に低下してきている。新左翼の反体制勢力が台頭している。最終的にどちらの候補が大統領に選ばれるにせよ、課題が山積みであることは間違いない。11月19日の結果は、次期政権の政策路線を複雑にする。特に、断片化が進む議会では改革が難しくなる。

第一ラウンドで敗退した候補者の支持票がピニェラ、ギジェル両候補にどのように流れるかが注目される。カスト氏(保守派候補)は決選投票でピニェラ前大統領の支持する表明を既に出していることを考慮すると、彼の8%の得票率がピニェラに流れる可能性は非常に高い。第1ラウンドの投票結果が繰り返されれば、ピニェラの投票率は45%に達する(Gonzalez 2017)。「両候補者にとって、12月17日の決選投票は接戦になることは間違いない。各候補者は、政治思想が異なる有権者を呼び込むために、これまでとは異なった選挙公約を発信しなければならない。ピニェラは中道派の支持を求めて、ギジェルは左派票の獲得を狙うだろう」とBCI Estudios社は予測する(La Tercera 2017d)。

ギジェル候補の場合、その他の左派勢力の支持が不可欠なのは明らかだ。投票の6%を獲得したオミナミ氏は開票後に、ギジェル支持に回ると表明しているが、その他の左派票が割れる可能性がある。これらの候補者は選挙戦で、最終的にピニェラ前大統領の対抗馬を支持することで合意してはいるものの、サンチェス氏が決選投票でギジェル支持に回るかどうかについて、最終的な判断は11月30日まで控えるとの声明を出していた。

サンチェス連合代表は30日に、ギジェル候補を直接支持する声明を出さなかった。「我々は、支持者の票を所有していない。だからこそ、(フレンテ・アンプリオ)支持者は、個人の信念と判断に基づいて、決選投票でどの候補に投票すべきか、よく考えて、一票を投じなければならない」と訴えた。表明文書にはギジェル候補の名前が言及されていなかったと報じられる。サンチェス代表は、ギジェル氏の「曖昧さ」を指摘、「拡大前線」がこれまで国民に訴えてきた政策課題について、「新大多数派」が政策をより明確にする必要があると強調した。特に、AFP制度の廃止、教育の無償化、憲法改正、税制について、改革を推し進める必要があると主張する(Aninat 2017a)。ピニェラ前大統領が12月4日のラジオ番組のインタビューで、11月19日の投票でギジェルかサンチェス候補の名前の欄が既にマークされた投票用紙が幾つかの選挙区で配布されたと告発したところ、サンチェス候補が前大統領を強く非難、彼女自身はギジェル上院議員支持に回るとの表明を出した。選挙管理当局はこの告発は根拠のないものと否定した(Fuentes 2017)。

社会党(PS)は、議会選挙の結果を歓迎、大統領選では新興左派と中道左派勢力を結びつけて、ギジェル候補を支持する構えをみせている。「ギジェルが当選すると我々は確信している。(今回の選挙で)、チリの有権者の多くは中道左派に投票、(その代表を)選出した。その意味で、チリの有権者の大多数が、ピニェラ氏が大統領になることを望んでいない」とラビンドラナス・キンテロ上院議員は述べる。「チリ社会が必要とする大変革に連動性をもたらすには、ギジェル候補を選ぶことだ。ピニェラ前大統領は一度政権を握ったが、業績として挙げられるのは漁法の改正だけだ」と同上院議員は語る(Jara 2017c)。また、第1ラウンドで敗北した「国民党」(Partido País)から立候補したナバロ上院議員は、ギジェル候補を支持すると発表した(La Tercera 2017a)。

いずれにせよ、2017年に元学生リーダーのガブリエル・ボリック氏とジョルジオ・ジャクソン氏によって設立されたサンチェス連合の支持が、ピニェラであれ、ギジェルであれ、次期大統領のアジェンダを実行するうえで重要な役割を果たすことは間違いない(O'Boyle 2017)。「拡大前線」は下院で21議席を獲得、議会で大3勢力となったことを忘れてはいけない。ジャーナリストから政治家となったサンチェス氏が政界でどのような役割を果たして行くのかは、今のところ確かではないが、「拡大戦線はチリの政界における存在感を高めていく」と彼女自身が述べている。

11月20日の午後、キリスト教民衆の国家評議会が開催され、マティアス・ウォーカー暫定代表は、ギジェル氏を支持する声明を出した。「我々は参加する中道左派に属する政権として、それを再確認する時が来た。今回の大統領選挙で何が問われているのかを再認識し、チリ国民に対する歴史的責任を前提に、アレハンドロ・ギジェル・アルバレス氏を大統領候補として支持することを宣言する」との表明を出した。キリスト教民主党の支援が「条件なし」であることを強調したうえで、ゴイック候補がキャンペーンで掲げた政策案を受け入れるよう希望すると述べた(La Tercea 2017b)。

キリスト教民主党の支持を得たギジェル候補は、「拡大戦線」連合に属する政党の支持を取り付けるために、決選投票に向けて動きだした。新しいキャンペーン公約として、「国家保証プログラム付きクレジット」(Crédito con Garantía Estatal : CAE)債務の免除、拠出建て(確定拠出型)の個人勘定年金 AFP(Administradoras de fondos de pensiones)制度の独占廃止を11月27日に発表した。サンチャゴのカリオラ劇場で開かれたこのイベントには、ポーラ・ナルバエス官房長官(社会党)やクラウディア・パスカル女性問題担当相(チリ共産党)などの閣僚、国会議員、市長、支持者などが出席した。ギジェル候補はその講演で、「(右派は)未来志向のプロジェクトを持っていない」と指摘したうえで、「新多数派」連合のこれまでの業績を強調、CAE制度を終わらせることを約束した(Jara 2017b)。「フレンテ・アンプリオ」の支持を取り付けるには、大衆迎合主義(ポピュリスト)的とも言えるメッセージを送る必要があるのは否めない。

ギジェル候補は、「CAE制度を終わらせるために必要な費用を政府が負担すべきではない主張する人々は、独裁政権が債務危機に陥った銀行を救済した際に、それを扇動行為と非難した者はいなかったことを思い出していただきたい。時間がかかるかもしれないが、

是非 CAE 制度を終わらせたい」と述べている。これに関して、CAE 債務者と連帯基金 (Fondos Solidarios) の債務者と連動して、「最貧層の 40% の債務者を免除する」と述べた。また、キリスト教民主党のゴイック上院議員が提案していた専門・技術学校の無償化、「がん法」を支持する考えを明らかにした。年金制度の将来について、ギジェル候補は、「AFP の独占を終わらせる」考えを明らかにして、代替制度を提案した。彼は、「年金制度が市場経済に基づく単一の積立方式である必要はない」と述べた (Jara 2017b)。これらの社会福祉プロジェクトに必要な財源をどのように確保していくのかは、今のところ明らかではない。

「拡大戦線」連合を構成する 13 の政党や運動のうち、7 団体は各党員が自己の判断で、大統領選挙で自由に投票するように声明を出している。「クリーン環境党」(PEV) と「平等党」(PD) の 2 党は、ギジェル候補を支持することを拒んでいると報じられる。「人権党」(Humanista) は、「新大多数派のいかなる陣営、政府とも関与する用意はない」としている (Emol.com 2017c)。「絶対自由主義左派党」(Izquierda Libertaria : IL)、「独立左派党」(Izquierda Autónoma : IA)、「新民主主義党」(Nueva Democracia : ND) の 3 党は、条件付きでギジェル候補の支持に回る姿勢だ。「自治運動党」(Movimiento Autonomista : MA) と「民主革命党」(RD) は今のところ、ギジェル候補を支持するとは明言していない (Jara 2017a)。

自治運動党 (MA) のホルヘ・シャープ下院議員は「拡大戦線は、右翼がチリを統治することを妨げるのに役立つなければならない。学生運動を再活性化させるなど、さまざまな方法でそれを行うことができる。我々は、国会議員の集団と優れた地方自治体を擁している。新大多数派連合は多大な問題を抱えている。特に、ギジェル候補は団結できていない政治勢力に支持されているに過ぎない。それが疑問視され、深刻な危機に陥っているのが現状だ。彼らが、彼らと同等の勢力として拡大戦線と関与していかなければならないことを理解しているのかどうかは、分からない」と指摘する (Aninat 2017b)。

ギジェル候補が反体制的 (anti-establishment) な新興左派の支持を取り付けるかどうかは、彼らが要求する改革路線と融合性のある政策を打ち出すことができるかにかかってくる。「ギジェルへの支持は、我々の代表 (サンチェス) の支持に繋がった緊急の社会要求を受け入れこそ、初めて達成できる」と「独立左派党」(IA) 代表が表明を出している。より具体的には、私立教育から公立教育への補助金の転換、CAE 学生の債務免除、AFP 制度の撤回を挙げている。また、団体交渉やストライキを保証する労働条件の改善、単一の健康保険の設立、合法的中絶とジェンダー平等など保証、プンタ・プエコ刑務所の閉鎖、人権問題に関する『バレック報告書』に含まれている情報の公開、漁業法の廃止なども挙げられる (Jara 2017a, 2017b)。新左翼が要求するのは大衆迎合主義的な政策だけではない。

「チレ・バモス」連合と国民改新党のリーダーであるクリスチャン・モンケベルグ下院議員によると、ピニエラ候補の支持に回る団体が増えている。これらの団体について、「(我々は) 貢献したいと考えるすべての人に開放的な姿勢だ。重要なのは、この貢献は時間が経っても維持されるということだ。我々がより広範かつ包括的な連立を形成しようとするれば、(決選投票の) 12 月 17 日までだけでなく、次期政権にも繋がるのが望ましい」 (Emol.com 2017b)。「チレ・バモス」連合の大統領候補を決める、第 1 次選挙でピニエラ前

大統領と争った国民革新党(RN)のオサンドン上院議員は、「ピニェラ氏とは多くの問題について見解が異なることはあるが、(決選投票では)彼を支持する」とピニェラ擁護に変わった。オサンドン氏がピニェラ候補も教育の無償化を進めるべきだと進言ことを受けて、その政策を推進してきた「新多数派」陣営は、票獲得のためのキャンペーン・ギミックだと保守陣営を非難した(Emol 2017d)。既に述べたように、右派・中道連合の大統領候補を決める第1ラウンドで3位につけた「政治進化党」代表のカスト氏は、ピニェラ支持の声明を出している。彼が第1ラウンドで獲得した8%に近い得票率がピニェラ候補の勝利に不可欠となる。

一方で、バチレ1次政権で財務相を務めたアンドレス・ベラスコ氏が立ち上げた「市民党」(Ciudadanos)のリーダー格であるセバスチャン・シーケル氏は、ピニェラ候補を支援することを表明した。同党内では、「誰の支持に回るのかは個人の自由だが、ピニェラ候補の支持に加わる人もいる」と語った。「集結」連合(Sumemos)を構成する「市民党」、「拡大勢力党」(Amplitud)、「みんなの党」(Todos)の3党の支持者がピニェラ支持に回る可能性がある。キリスト教民主党の中にも、ピニェラ候補支持に回る黨員も出てくるかもしれない(Emol.com 2017a)。

ギジェル候補が「拡大戦線」勢力の全ての支持投票を取り付けることは決して容易ではない。ギリエル氏が決選投票で勝利するには、キャンペーンの調整が必要だと、同候補の決選投票キャンペーンの再修正に関与するセルジオ・ビタール元閣僚は語る。「拡大戦線の攻勢は非常に強力だ。『新大多数派』連合政権の政策に賛同せず、拡大戦線に投票した有権者が何人いたのか、与党候補に投票しなかったが、同じ政治理念を共有する有権者が何人いたかを正確に把握する必要がある。若年層の指導者が多い拡大戦線を支持する有権者は、チリで左派が再生される重要性を理解する必要がある。サンチェスは、チリの政界に新しい風を吹き込んだだけでなく、国家政治に非常に重要な貢献をしている」と述べる(Caro 2017)。ギジェル支持に回る技術者、政治家が増える可能性がある。特に、当初社会党から率候補したりカルド・ラゴス元大統領がギジェル氏支持に回ったことは重要だ。

一方で、ピニェラ前大統領が勝利するには、野党連合がより進歩的な政治団体へと革新しなければならない。右派支持者として知られるセバスチャン・エドワーズ米カリフォルニア州立カリフォルニア大学ロサンゼルス校経済学教授は、ピニェラ氏が当選することで、失業率が減少して、賃金が上昇、第4技術革命がもたらす雇用の破壊を食い止めるための準備ができていると考える。教育の質が向上し、より公平な繁栄に向けて進歩する可能性が高まるとしている。だが、「チリ右派の一角が自閉症を患っており、自己の事で精一杯だ。近親の環境から抜け出して、他人を理解し、分かち合うことができていない。自閉症の他に、チリ右派は勝利主義的、本質的に保守であり、姿勢を変えようとはしない。ピニェラの選挙運動を担ってきたのは右派であり、第1ラウンド投票で失望した結果に終わったのは、(右派の体制に)責任がある」と同教授は右派が姿勢を正す必要性を説く。「進歩的なリベラリズム」の精神で、若年層、起業家、女性、また、チリがより友好的な国となることを望む人々との協調路線に重点を置く必要がある。いじめの少ない、社会的権利が保証される国になるべきだ」と訴える(Edwards 2017)。これまでの失敗を真摯に受け止め、与党連合の政策提案を悪いものと決めつけるのではなく、完璧ではない政策は改善の余地があ

ると認識して共有されなければならない。右派がより開放的で、風通しが良い連合に生まれ変わって初めて、中道右派政権の復帰が可能となる。

## 参考文献

Álvarez, Rosario (2017a) “Cadem: Piñera supera a Guillier por sólo dos puntos en segunda vuelta”, La Tercera, 27 de noviembre.

<http://www.latercera.com/noticia/cadem-pinera-supera-guillier-solo-dos-puntos-segunda-vuelta/>

Álvarez, Rosario (2017b), “Más de 30 parlamentarios entrarán al Congreso con menos del 5% de los votos”, La Tercera, 20 de noviembre.

<http://www.latercera.com/noticia/mas-30-parlamentarios-entraran-al-congreso-menos-del-5-los-votos/>

Aninat, Catalina (2017a), “Frente Amplio evita respaldar a Guillier y cuestiona su ambigüedad”, La Tercera, 30 de noviembre.

<http://www.latercera.com/noticia/frente-amplio-evita-respaldar-guillier-cuestiona-ambigüedad>

Aninat, Catalina (2017b), “Jorge Sharp: “El Frente Amplio tiene que contribuir a impedir que la derecha gobierne”, La Tercera, 20 de noviembre.

<http://www.latercera.com/noticia/jorge-sharp-frente-amplio-contribuir-impedir-la-derecha-gobierne/>

BBC Mundo (2017), “Elecciones en Chile: el expresidente Sebastián Piñera y el oficialista Alejandro Guillier van a segunda vuelta en diciembre”, 19 de noviembre.17

<http://www.bbc.com/mundo/noticias-america-latina-42042873>

Caro, Isabel(2017), “Sergio Bitar: Guillier tiene ahora la autoridad política de conducción de las fuerzas progresistas”, 21 de noviembre.

<http://www.latercera.com/noticia/sergio-bitar-guillier-ahora-la-autoridad-politica-conduccion-las-fuerzas-progresistas/>

Edwards, Sebastián (2017), “Columna de Sebastián Edwards: Las falencias de la derecha”, La Tercera, 25 de noviembre.

<http://www.latercera.com/noticia/columna-sebastian-edwards-las-falencias-la-derecha/>

Emol.com (2117a), “Dirigente de partido de Andrés Velasco confirma que votará por Piñera en el balotaje”, 27 de noviembre.

<http://www.emol.com/noticias/Nacional/2017/11/27/885090/Dirigente-de-partido-de-Andres-Velasco-confirma-que-votara-por-Pinera-en-el-balotaje.html>

Emol.com (2117b), “Chile Vamos apunta a que apoyos de figuras del centro a Piñera se proyecten más allá de la campaña presidencial”, 27 de Noviembre.

<http://www.emol.com/noticias/Nacional/2017/11/27/885094/Monckeberg-y-nuevos-apoyos-a-Pinera-Si-vamos-a-conformar-una-coalicion-mas-amplia-que-no-sea-solamente-por-20-dias.html>

Emol.com (2017c), “Partido Humanista resuelve "no involucrarse en ningún comando ni gobierno de la Nueva Mayoría”, 26 de noviembre.

<http://www.emol.com/noticias/Nacional/2017/11/26/884946/Partido-Humanista-resuelve-no-involucrarse-en-ningun-comando-ni-gobierno-de-la-Nueva-Mayoria.html>

Emol.com (2117d), “Guillier valora que Ossandón "convenciera a la derecha" de avanzar en la gratuidad”, 25 de noviembre.

<http://www.emol.com/noticias/Nacional/2017/11/25/884876/Guillier-valora-que-Ossandon-convenciera-a-la-derecha-de-avanzar-en-la-gratuidad.html>

Emol.com (2117e), “Frente Amplio definirá eventual apoyo a Guillier el próximo 29 de noviembre”, 20 de Noviembre.

<http://www.emol.com/noticias/Nacional/2017/11/20/884181/Frente-Amplio-definira-eventual-apoyo-a-Guillier-el-proximo-29-de-noviembre.html>

Fernández, Aninat y O.(2017), “Frente Amplio se instala como la tercera fuerza política”, La Tercera, 20 de noviembre.

<http://www.latercera.com/noticia/frente-amplio-se-instala-la-tercera-fuerza-politica/>

Fuentes, Manuel (2017), “Piñera desata tormenta política con denuncia de fraude en elecciones de Chile”, EFE, 4 de diciembre.

Gonzalez, Elizabeth (2017), “Chile Election Update: Four Takeaways from the First Round”, Council of the Americas, November 20.

<http://www.as-coa.org/articles/chile-election-update-four-takeaways-first-round>

Jara, Alejandra (2017a), “Cierre de Punta Peuco, condonación del CAE y fin de las AFP: Las condiciones de IA para apoyar a Guillier”, La Tercera, 27 de noviembre.

<http://www.latercera.com/noticia/guillier-anuncia-condonara-cae-40-deudores-pondra-fin-al-monopolio-las-afp-nuevo-lanzamiento-campana/>

Jara, Alejandra (2017b), “Guillier anuncia que condonará el CAE y pondrá “fin al monopolio de las AFP” en nuevo lanzamiento de campaña”, La Tercera, 27 de noviembre.

<http://www.latercera.com/noticia/guillier-anuncia-condonara-cae-pondra-fin-al-monopolio-las-afp-nuevo-lanzamiento-campana/>

Jara, Alejandra (2017c), “PS llama a la unidad de las fuerzas de izquierda y pide que apoyen a Guillier en segunda vuelta” , La Tercera, 20 de noviembre.

<http://www.latercera.com/noticia/ps-llama-la-unidad-las-fuerzas-izquierda-pide-apoyen-guillier-segunda-vuelta/>

La Tercera (2017a), “Partido País se une a campaña presidencial de Guillier”, 25 de noviembre.

<http://www.latercera.com/noticia/partido-pais-se-une-campana-presidencial-guillier/>

La Tercera (2017b), “Consejo Nacional de la DC anuncia apoyo sin condiciones a Guillier”, 20 de noviembre.

<http://www.latercera.com/noticia/consejo-nacional-la-dc-anuncia-apoyo-sin-condiciones-guillier/>

La Tercera (2017c), “Bolsa de Santiago registró su peor desempeño diario en más de 6 años tras elecciones”, 20 de noviembre.

<http://www.latercera.com/noticia/bolsa-santiago-opera-fuerte-baja-tras-resultado-elecciones-presidenciales/>

Rivas, Sebastián (2016), “Por qué el voto de los chilenos en el exterior puede ser clave en las elecciones presidenciales”, La Tercera, 03 de Agosto.

<http://www.latercera.com/noticia/politica/2016/08/674-691321-9-por-que-el-voto-de-los-chilenos-en-el-exterior-puede-ser-clave-en-las-elecciones.shtml>

Molina, Paula (2017), “Por qué las elecciones de este domingo en Chile son únicas y cómo podrían cambiar el equilibrio de poder en el país”, BBC Mundo, 19 noviembre.

<http://www.bbc.com/mundo/noticias-america-latina-41985032>

O’Boyle, Brendan (2017), “Chileans Are Frustrated With Politics, Too”, Americas Quarterly, November 20.

<http://americasquarterly.org/content/chileans-are-frustrated-politics-too>

Pardo, Daniel (2017), “Elecciones en Chile: cuál es el legado de Michelle Bachelet y por qué es más valorado en el extranjero que en su país”, BBC Mundo.

13 de noviembre. <http://www.bbc.com/mundo/noticias-america-latina-41923937>

Rivas, Sebastián (2016), “Por qué el voto de los chilenos en el exterior puede ser clave en las elecciones presidenciales”, La Tercera, 03 de Agosto.

<http://www.latercera.com/noticia/politica/2016/08/674-691321-9-por-que-el-voto-de-los-chilenos-en-el-exterior-puede-ser-clave-en-las-elecciones.shtml>

Sallaberry, Juan Pablo (2017), “Poder Legislativo registra su mayor renovación desde 1990”, La Tercera, 20 de noviembre.

<http://www.latercera.com/noticia/poder-legislativo-registra-mayor-renovacion-desde-1990/>

Sanders, Philip and Javiera Quiroga (2017), “Surprise Blow to Billionaire Sends Chile Vote to Second Round”, bloomberg.com, November 20.

<https://www.bloomberg.com/news/articles/2017-11-20/surprise-blow-to-billionaire-sends-chile-vote-to-a-second-round>

Smink, Veronica (2015), “5 reformas que sacuden el pasado conservador de Chile”, BBC Mundo, 2 de febrero.

[http://www.bbc.com/mundo/noticias/2015/02/150202\\_chile\\_bachelet\\_reformas\\_vs](http://www.bbc.com/mundo/noticias/2015/02/150202_chile_bachelet_reformas_vs)

Velásquez, Fredi (2017), “Mujeres representarán el 22,7% del nuevo Congreso”, La Tercera. 20 de noviembre.

<http://www.latercera.com/noticia/mujeres-representaran-227-del-nuevo-congreso/>

Vilches, José Manuel (2017), “Centroizquierda 55% y centroderecha 44%: La tendencia electoral que se ha repetido en Chile”, Emol.com, 20 de noviembre.

<http://www.emol.com/noticias/Nacional/2017/11/20/884088/Izquierda-55-y-derecha-44-La-tendencia-electoral-historica-de-Chile.html>